

先輩社員に聞く電気工事の魅力

技術力への向上心が成長につながる

太田伸也

田中電気株式会社
工事部

2013年3月卒業 同年4月入社

出身校 日本電子専門学校



――どのように就職活動を進めましたか？

太田 当初から電気工事会社で働きたいという希望を持っていましたので、まず就職担当の先生に相談をしました。その後、自分でもいろいろと調べ、合同企業説明会にも参加し、その後もできる範囲で情報収集を行いました。

――就職先を決める上で、基準としていたことはありましたか？

太田 私は電気工事士を希望していましたので、どのような仕事ができるかですね。さまざまな経験を積んで技術を向上させていきたいと考えていたので、安定して受注が途切れない会社であれば、自分の努力次第で成長できるのではないかと感じていました。

――田中電気に入社した動機を教えてください。

太田 まず、電気工事士を募集している会社を探しました。正直、電気工事士を募集している会社は少なかったもので、当初はかなり苦労しました。

そうした中で、就職担当の先生に相談し、自分でもいろいろと動いて出会ったのが田中電気でした。

実際に田中電気の会社説明会に参加して感じたことは、会社説明会を担当した方の印象が非常に良かったことと、社内の雰囲気ですね。何か抽象的になってしまいましたが、今となっては当時の感覚が正しかったと思います。

――現在はどのような仕事をされているのでしょうか？

太田 マンションの新築工事を担当しており、基本的には一人で現場を任されています。仕事をする上で常に意識していることは、工事品質を保ちつつ作業の効率性を高めることです。

現場が終わった後は、あの部分をこうすればもっと作業効率が高まったのではないかと、ということを考える癖

を付けています。

効率的に仕事をする事ができれば、より多くの現場を経験できるチャンスが生まれ、電気工事士としてさらに技術を高めることができるのではないかと感じています。

――新人の頃は先輩に質問する際、こんなこと聞いても大丈夫かなという感じで、ちゅうちょすることはありましたか？

太田 ありませんでしたね（笑）。先輩は分からないことがあれば、聞いてほしいと言ってくれましたし、実際に答えてくれました。

もちろん、先輩も人間ですから何回も同じ質問をすれば、怒ることもあります。ですから、分からないことは積極的に聞いて、同じミスを繰り返さない意識が大切です。

一番良くないことは、分からないことをそのままにしておくことです。なぜなら、一つは自分の成長に繋がらないこと、もう一つはそうした行為が施工ミスや工期の遅れに繋がり、結果的に得意先や会社に迷惑をかけるしまう可能性もあるからです。

――仕事をしている中で、こういったことに喜びを感じますか？

太田 初めて一人で現場を任された時は感動しました。現場を任されるということは、多少なりとも会社や先輩から実力を認められたわけですから。

やはり、仕事する際は自分で考え、分からないことは先輩に質問することを繰り返していたので、その成果が実ったのだと思い本当にうれしかったです。

これは多くの人を感じていることだと思うのですが、自分が関わった建物で初めて照明に明かりがついた時は、何度経験しても感動します。電気工事業でなければ経験できない特別な喜びです。